JIC インフォメーション

第 144 号 2007 年 4 月 10 日
年 6 回 1･2･4･6･9･11 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義　http://www.jic-web.co.jp
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪オフィス：〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 ﾌｪｱｽﾃｰｼﾞ大手前ﾋﾞﾙ 5F TEL：06-6944-2315　jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連　国際交流誌

JICのホームページをチェックしよう!
http://www.jic-web.co.jp

JIC では、Ｊクラブ（JIC 友の会）会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICロシア講演会　2006年11月18日　東京

ロシア文学に魅せられて　～私のロシア語学習遍歴～　後編

創価大学　阿部昇吉氏

2006 年 11 月 18 日(土)に東京にて創価大学の阿部昇吉先生を講師にお招きし、「ロシア文学に魅せられて～私のロシア語学習遍歴～」というテーマで講演会を開催しました。前号に引き続き、今回はその後編をご紹介いたします。楽しいロシア語の学習方法がいっぱいです。参考になさってください。

疲れたときはオペレッタ

資料を見てください。左側は「行ってみたい劇場」。ロシアの有名な劇場です。下にはバレエやオペラ、オペレッタの名作が載っています。どの劇場に行っても損がないし、チケットも安いので手当たり次第に行ってもいいでしょう。ただ、語学を中心に学びたいというのであれば、私はオペレッタを推薦したいですね。オペレッタは、ミュージカルみたいなものですが、特徴は“ハッピーエンド”です。どんな物語であっても必ずハッピーエンドで終わります。だから落ち込んだ時に行くと元気になる。特にロシアの冬はすごく長い。気が滅入ってしまう。からっと晴れて雲がなくてすごく寒いのがいいか、どんよりと雲に覆われているけれども雲の保温効果で暖かい日がいいか、二者択一なんですよね。でも二者択一と言っても、こっちは選べません。曇った日が続くとだんだん気が滅入ってしまう。大げさですがロシア人は 11 月になると「集団うつ病」になると言われます。そういう天気が続くんです。そんな時にはオペレッタを観るといいです。オペレッタの構成ですが、歌があります、そして踊りがあります、次に簡単な台詞回しの小芝居があります。これがロシア語の学習にちょうどいいかなと思います。芝居だけだとちょっと疲れるので、歌を聴き、踊りを観て、また台詞に集中する。中でも代表的な作品、「こうもり」とか「サーカスの女王」、このへんは是非観てほしいと思います。

「チアトラーリナヤ」(≪Ｔｅａｔｒａｌｂｎａｙａ≫)という地下鉄の駅を中心にしてボリショイ劇場とオペレッタの劇場が対称の位置にあります。外から見ると場末の映画館みたいな感じでわからないのですが、中は大きくて、ボリショイ劇場と同じ構造になっています。ロシアに行ったらぜひぜひ行ってほしいと思います。

19 世紀ロシア文学を生んだデカブリストの乱

資料の右側は、オーソドックスなロシア文学の代表作です。他にもいっぱいあるのですが、何と言っても外せないのがプーシキンです。プーシキンから 19 世紀のロシア文学が始まったと言われています。まさにそうだと思います。なぜプーシキンがすごいのか。いろいろな理由がありますが、話し言葉をふんだんに取り入れつつ完成度の高い作品を生み出し、その結果として現代ロシア語の基礎を築いたというのがひとつあります。日本の夏目漱石みたいな感じでしょうか。プーシキンは 1799 年に生まれて 1837 年に決闘で倒れるんですが、ロシア文学を語る上で大事なポイントとして忘れてならないのが 1825 年の 12 月です。

<プーシキン>

19 世紀のロシア文学というのは人類の知的財産ですが、この年のこの月、すなわち 1825 年 12 月にすべてが決まったのではないかとすら思います。ロシア語で「12 月」というのは？―(参加者:「ヂカーブリ/ｄｅｋａｂｒｙ」)―そう、ヂカーブリ(ｄｅｋａｂｒｙ)、この 12 月に反乱が起こります。12 月党、12 月の人が起こしたので「デカブリストの乱」と呼ばれています。なぜこれがプーシキンと関係あるのか？プーシキンはリツェイという学習院の 1 期生としてエリート教育を受けました。そこには優秀なメンバーがたくさんいて、学習院という割には国粋的な教育を全然受けてなくて、むしろ非常に自由奔放な教育を受けています。なぜかというと、ロシアは、その少し前、1812 年のフランスとの「ナポレオン戦争」(祖国戦争)でフランスの文化をおおいに吸収していたからなのです。プーシキンたち青年は本当に自由を謳歌するわけです。

プーシキンは最初、詩人からスタートしました。1825 年の 12 月にプーシキンの友人たちはほとんどデカブリストの乱に参加します。その数 3,000 人です。ロシアは当時ヨーロッパの他の国々に比べて遅れていた。その原因は何かといえば、農奴制です。ほとんどの農民が土地に縛り付けられた奴隷状態でいた。その上に貴族たちがいて、ロシアはヨーロッパ的な近代社会から大きく取り残されていた。それを打開したいと青年貴族たちが 12 月に決起します。プーシキンも参加したかった。しかし、彼はその前年に書いた詩で政府から目をつけられていて、南方の自分の領地に追いやられていたんです。この年、ちょうど皇帝（ツアーリ）が亡くなると、今がチャンスだ、革命を起こそうと青年貴族たちが立ち上がった。『戦争と平和』の新訳を出された藤沼貴先生によると、

歴史上 3,000 人もの人間が上から（支配階級の側から）革命を起こしたなんてことは、皆無ではないかということですが、デカブリストたちは実行するわけです。ところが皇帝に全部筒抜けなんですね。3,000 人が広場に集結したら、すでに新皇帝の宣誓式は終わっていた。そしてその数倍の数の兵士が彼らを取り囲んだ。もう勝ち目はありません。主謀者は処刑され、デカブリストのほとんどはシベリアに送られる。プーシキンは悲しかったでしょうね。仲間が処刑されたり、流刑にされたり…。また自分だけ助かったという仲間に対する負い目もあったと思います。そんな思いが、その後の彼の創作意欲の奥底にあったのではないか。反乱が終わってからプーシキンは、ペテルブルグに戻ってきて皇帝と謁見します。皇帝は意地悪く、「もしあの時に君がペテルブルグにいたら、君はどうした？」と聞きます。すると「もちろん参加しました」とプーシキンは答えます。私だったら「いえ、全然、そんな…」とか言うんですが、すごい、骨がありますね。すると皇帝はにこにこ笑って「そうか、わかった。これからは僕が君の校閲者になってあげよう」と。これは君の作品を全部検閲しようということなのです。そしてここから検閲が強化されていきます。

19 世紀ロシア文学の魅力

かなり大雑把ですが、19 世紀ロシア社会を簡単に図式化すると次のようになります。

$$19\text{ 世紀ロシア} = \frac{\text{検閲 VS 余計者}}{\text{農奴制 ＋ 教会}}$$

ロシア社会の底辺を農奴制と教会（ロシア正教）が支えている。ロシアの農奴制というのはアメリカの奴隷制と違って、同じ民族なんですね。外国から連れて来た奴隷ではなく同じスラブ民族です。それと教会、これはピョートル大帝の時代に徹底的に骨抜きにされています。体制を守るシステムなわけです。

権力側は何を武器にしたかというと、検閲です。あらゆる文学作品・著作を検閲します。教会もそれに加わりました。ツアーリと貴族支配・ロシア正教に対して反感をもっていそうなものは、全部弾圧するわけです。

どういう人たちが権力と戦ったのかというと、文学者です。文学者は、これは自嘲して言っているのですが、自分達のことを「余計者」と呼びました。才能があるんだけどこれを生かすことができない。これが 19 世紀のロシアの構図といえるでしょうか。

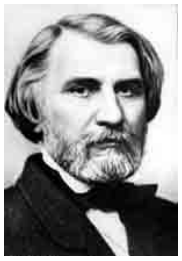
プーシキンはこの後、詩も書きますが、散文に入って行きます。『エヴゲーニイ・オネーギン』。これは面白いです。詩で書いた小説です。韻を踏みながら小説になっているのです。すごい。もう離れ業ですよね。ですから日本語に直すと、その良さがなかなか伝わらないのですが、韻を踏んだ散文、韻文小説です。

プーシキンの後に出てくるのがゴーゴリです。ゴーゴリはプーシキンの庇護を受けて育っていくんですが、面白いことが大好きな人間で、人を笑わせたい、それも「涙を通した笑い」を与えたいということで作品を書いた。プーシキンが決闘で亡くなって一番ショックを受けたのがゴーゴリということになるでしょうか。で、そのゴーゴリの作品の中で今一番読んで欲しいのが『死せる魂』です。これが実は誤訳なんです。ロシア語を勉強している人なら分かると思うのですが、「死せる魂」、ロシア語ではミョールトヴィエ・ドゥーシ（мёртвые дýши）といいます。ドゥーシの単数形はドゥシャー（душá）で、これには確かに「魂」という意味があります。ミョールトヴィエは「死んだ」という意味です。この作品を読むと、ロシア人の持ってる悪い点が浮き彫りにされているので、「死せる魂」という訳がぴったりくるのですが、原意はそうではなくて、ドゥシャーにはもう一つ意味がある。「農奴」です。チチコフという禄でもない人間が、いろんな地主のところへ行って、死んだ農奴の名簿を買いあさる。そんなものどうするんだと思うのですが、名簿を担保に銀行からお金を借りる、そういう魂胆があるんです。死んだ農奴の名簿など、どの地主にも意味がないのですが、交渉をしてるうちに、だんだん「何か意味があるんじゃないか」と思い始めるわけです。死んでるんですよ、名前だけですよ。まさに「死せる魂」なんですが、原意としては「農奴」ってことなんですね。ですから『死せる農奴』が正解です。

<ゴーゴリ>

ロシア文学の目指したものを敢えて一言で表現するとすれば、「ドゥシャー（農奴・魂）の解放」と言えると思います。諸悪の根源の農奴制を廃止しようとしたのです。そして 1861 年に農奴解放の法律は出来ました。しかし、人間の魂はその後も解放されなかった。魂の解放、これは永遠の課題でしょうけれども、これがロシア文学の目指したものであると思うし、その豊かな魅力の淵源もここにあるのではないかと思うのです。

ツルゲーネフが書く女性像は美しいですね。ロシア語も美しいですけど、是非読んで欲しいと思います。ツルゲーネフに『猟人日記』という短編集があります。彼は大貴族です。全くお金に困りません。彼は猟犬を連れながら自分の領地を歩き回ります。その見聞を文章にしたのが「猟人日記」ですが、暗に農奴制の打破につながったと言われています。本人がそんなつもりで書いたのかどうかは分からないの


<ツルゲーネフ>

ですが、今日はちょっとだけ猟人日記の一部分を紹介しようと思います。「歌うたい」という作品です。これはロシア語で聞くとすごくきれいです。コロトフカという村がありまして、猟人（作者本人）が夏の暑い盛りに行くわけです。暑いから居酒屋に寄ります。すると、みんな何か華やいでいる。居酒屋の名前が「極楽亭」という名前で、何か大騒ぎしている。街からやってきた歌の上手な男（請負師）と、ヤーシカという少年が歌くらべをする場面です。人々はいそいそとしていて、店主のニコライ・イワーヌイチは、勝った人にあげるビールの入ったでかいビンをテーブルの上に載せる。それで歌くらべがはじまる。請負師が先に歌うと、なかなか上手で、周りの人間も「上手いなあ」「素晴らしいなあ」と言う。で、次はヤーシカの番に。イノシシ旦那というごつい男がいて、その場を仕切っているのですが、パチクリというこれはあだ名ですが、そういう男が「やれやれ」と囃し立てる。そこで、ヤーシカが歌いだすシーンを、ちょっとだけ読ませていただきます。

「ヤーシカはしばらく黙って息を静めていたが、ふと辺りを見回すと、片手で顔を覆った。一同は食い入るような目を彼にあてた。請負師の目には力がこもった。その顔にはいつもの自信たっぷりな勝利を信じきった表情の影から、どうすることも出来ないかすかな不安がにじみ出た。やがて、ヤーシカが手を外して顔をあらわにしたとき、その顔は死人のように蒼ざめていた。伏せたまつげの影で、眼がかすかに光った。ヤーシカは深く息を吸って歌いだした。彼の声の最初の音は弱々しく乱れがちで、彼の胸から出たのではなく、どこか遠くのほうから漂い流れてきて、偶然に部屋の中に紛れ込んだかと思われた。この、鈴を振るような細かく揺れる音は、私たち一同に奇妙な感じを与えた。私たちは顔を見合わせたが、ニコライ・イワーヌイチの女房はきっと居住まいを正した。この最初の音の後に、もう少し強いノビのある音が続いたが、やはりまだ震えが残っていて、さながら強い指でふいに奏でられた弦が、まさに消えようとして最後の音を震わすに似ていた。続いて第三の音に変わり、そして次第に熱を帯び広がりながら、哀しげな歌が流れはじめた。『野の筋は一筋ならで』―彼は歌った。すると私たちは甘く切ない思いに胸が閉ざされはじめた。正直なところ、私はこのような声をほとんど聞いたことがなかった。それはわずかに割れていて、なめらかに繋がらないように聞こえた。初めのうちは何か痛々しい響きさえあった。しかしそこには、まやかしのない深い情熱と、若さと、力と、甘さと、なんとなく心を魅するような伸びやかな幼い哀愁とがこもっていた。ロシアの真実の熱い魂がそこにこもり、そして息づいていて、聞くものの心に染み入り、その心の中のロシアの弦にじかにふれた。歌は次第に大きく広がりわたっていった。ヤーシカは明らかに陶酔に浸りきっていた。彼はもう臆するところがなかった。全身をおのれの幸福にゆだねた。声にはもうおののきはなかった。震えはあったが、それは内に秘められた情熱のそれか、あらぬかすかな震えで、矢となって聞くものの心に突き刺さりながら、声は絶えず強まり広がっていった。私はふと、ある宵、はるか遠くに鈍く重々しくざわめく引き潮の海の広々とした干潟に、一羽の大きな白いカモメを見たときのことを思い出した。カモメは白絹のような艶やかな胸を真っ赤な夕映えに向けてじっと動かず、ただ時折懐かしい海原と、沈もうとする真っ赤な夕日に、長い翼をゆっくり張り広げるだけであった。私はヤーシカの歌を聞いているうちに、このカモメのことを思い出していた。彼はもう競争相手のことも、私たちのこともすっかり忘れて、陶然と歌っていた。しかし勇敢な泳者が波に突き上げられるように、私たちの無言の熱烈な共鳴によって、意気を高められていたことは明らかである。彼は歌った。そしてその声の一つ一つの音色から、まるで懐かしい荒野がはるか遠くまで果てしなく広がりをみせて、眼前に開けたように、何か懐かしい、計り知れぬ広いものが吹きかよってきた。私は胸がジーンと熱くなって、涙がこみ上げてくるのを感じた。押し殺したようなかすかなすすり泣きが、不意に私を驚かせた。振り向くと、女将が胸を窓に押し当てて泣いていた。ヤーシカはそちらをちらと見やると、ひときわ高く、ひときわ甘く歌いだした。ニコライ・イワーヌイチがうつむいた。パチクリが顔をそむけた。野暮天はすっかりほろりとなって、口をポカンと開けてつっ立っていた。みすぼらしい百姓は隅っこの方で、そっとしゃくりあげながら、めそめそ何やらつぶやいては頭を振っていた。イノシシ旦那の鉄のような顔をぎゅっと引き寄せた眉の下から、ゆっくり大粒の涙が伝った。請負師はかたくなに握り締めた拳を額に当てたまま、身じろぎもしなかった。もしヤーシカが高い、異常に細い音で、まるで声が切れたように不意にふっと歌を切らなかったら、一同のこのやるせない思いがどういうことになっていたか、私には見当もつかない。誰も声も立てず、身じろぎもしなかった。また歌いだしはしないかと、みんなが待っているかに思われた。彼は私たちの沈黙にびっくりしたかのように目を開け、いぶかしげに一同を見回した。そして自分が勝ったこ

＜11 月 18 日　ロシア講演会の様子＞

とを見て取った。
（新潮文庫『猟人日記』ツルゲーネフ　工藤精一郎訳）

みなさん、情景が浮かんだでしょうか。このあと猟人、つまり貴族のツルゲーネフは、みんなの邪魔をしないようにそっと居酒屋を立ち去ります。歌を描写するなんてスゴイですよね。でも、実はこれだけではないのですが、この短編集が発禁処分になります。何故って思いますよね。いい作品じゃないかって。しかし、これは貴族たちにとってみれば、許しがたい。文化の担い手は自分たちである。どうして、そんな普通の庶民が歌を分かることができるのか。そんな理由もあって発禁になってしまったんだと思います。この作品が世に出されることによって、みんな普通の人たちなのだということが分かります。それを貴族たちは恐れたのかもしれません。

ドストエフスキーにしてもトルストイにしても、みんな農奴というか農民と近い生活を送っているんです。そこから栄養をくみ上げて、作品を描いています。チェーホフに至ってはおじいちゃんが農奴でしたからね。そこで、まさしく「雑な階級」から生まれた人ということで雑階級人ということになります。

私が創価大学でロシア語を教えるようになって、そこで加藤九祚先生という方と知り合いました。もうかなりお年で、今はウズベキスタンに自分で家を建てて住んでいるんですが、シベリアで何年間も抑留生活を体験した先生です。初めてお目にかかって、お酒を飲んでいるときにチェーホフの話になりまして、「『犬を連れた奥さん』あれはいいね！奇跡だね！」と仰るものだから、私も嬉しくなって「そうですよね！」なんて、初めて会ったのに握手とかしながら、酒飲みながら語り合った記憶があります。何のことはない不倫の話なんですけど、チェーホフの作品というのは、不思議なことにこちらが成長していくにつれて読み方が変わって来る、鏡のような作品なんです。是非、暇があったら読んでみて下さい。

＜ブルガーコフ＞

ブルガーコフの『巨匠とマルガリータ』（マースチェル・イ・マルガリータ）、これは文句無く 20 世紀ロシア文学の傑作の一つです。時はスターリン時代。粛清の嵐が吹き荒れた時代で、彼は作品を発表できませんでした。スターリン時代の検閲や密告がどれほど強烈だったかは、ルイバコフの『アルバート街の子供たち』などを読むと分かります（ちなみにこの作品には「スターリン」という語が 635 回も登場します）。象徴的な例を一つ。ある学者の論文中に「スターリ・ナ・ドゥーシュ・ナセレーニヤ（ｓｔａｌｉ　ｎａ　ｄｕ́ｓｈｕ　ｎａｓｅｌｅｎｉｙａ）」というフレーズがあって、「スターリ（ｓｔａｌｉ）」というのは鉄鋼です。ドゥーシュ（ｄｕ́ｓｈｕ）というのは人です。それで、「スターリ・ナ・ドゥーシュ・ナセレーニヤ」で「人口一人当たりの鉄鋼量」という意味になる。ところが、当局がこの前半部分に難癖をつけます。「スターリナ・ドゥシュー（Ｓｔａｌｉｎａ　ｄｕｓｈｕ́」と読めると。これは「（私は）スターリンの首を絞める」という意味です。すごい曲解ですよね。少しでも自分たちに刃向かいそうな人間は難癖をつけて粛清していく。

ブルガーコフも自分の作品を生前発表できなくて、「机の中に書く」という表現がロシア語にはあるのですが、密かに書いた作品が『巨匠とマルガリータ』です。これは解説できません。いろいろなエッセンスが全て入っているので、一口に説明できないんです。しかしどのくらい面白いかと言うと、私の知人で腎臓が悪くて人工透析のために週 3 回くらい病院に通っている人がいるのですが、透析は一回で数時間はかかる。で、その間退屈なので本を読だりする。ある時、友達からこの『巨匠とマルガリータ』を借りて読んだそうなんです。透析はいろんな計器を身体につけた状態でやるんですが、そうすると血圧計とか心拍計などあらゆる計器が異常値を示したものだから、看護師さんが飛んできて、どうしたんですかって聞くんですが、「これ読んでた」とは言えなくて、「いや大丈夫です」と言ったそうです。

その人は全く文学肌の人ではないのですが、それでも計器が異常値を示すぐらい面白かったという話です。私自身もこの作品を初めてロシア語で読んだ時は、止められなくなりました。読書のスピードの一つの目安として、ネイティブのロシア人はだいたい 1 分で 1 ページくらい読みます。地下鉄に乗って見ていると、ほぼ 1 分くらいで次のページにいってる。日本人はそこまでは無理だと思うのですが、辞書を引かずに（できるだけ我慢して）、1 ページ 3 分か 5 分くらいで読むと筋もはっきりしてとっても楽しい。1 ページ 5 分だと 1 時間で 12 ページ、5 時間で 60 ページ…。これくらいで読むとほんとに面白い。これを＜読書のワープ体験＞と言ってるんですけど、このワープ体験をすると本の面白さが分かります。『巨匠とマルガリータ』はまさにこのワープ体験をさせてくれた作品で、400 頁くらいの本ですけど、ほとんど一晩で読みきったという記憶があります。それくらい面白いのです。

最後に、ロシア語の勉強法を簡単に申し上げます。「読む」ということに関しては、今言った＜ワープ＞に是非チャレンジしていただきたいと思います。「話す」ということに関しては、今はいろいろな CD がありますが、「シャドーイング」というやり方があります。CD を聞きながら、影のように少し遅れて話していく。ポイントはテキストを見ないでやる点です。1 分間に 300 語くらい出来ると、かなり喋れるようになると思います。残念ながらロシア語のシャドーイングの本は出ていないので、英語などの本を参考にしてシャドーイングをしてみるといいと思います。

「書く」ということに関しては、インターネットで自分の書い

たロシア語をグーグルか何かで検索をかけて、クリックすると、スペルチェックの機能をはたしてくれます。もっと厳密に知りたければ、ネットに「コーパス」というロシア語の正しい表現を集めた資料集がありますから、アクセスすると、正確なロシア語の用法を確認できます。

語学学習には、単語を覚えたり文法を勉強したりと、どうしても避けて通れない課題があります。それは時に退屈だったり、また苦痛だったりして勉強を断念する一因になったりもするわけです。でも折角やりはじめたのに、これはもったいないですよね。誰でもそうですが壁にぶつかったときには、

ちょっと工夫してみましょう。ひとつは＜サンドイッチ＞型です。自分の好きなこと、例えば音楽や映画でも何でも良いですから、それを退屈な勉強の間に挟んでみる、あるいは逆に楽しいものの間に苦手な勉強を挟むのでもOKですが、こうすると学習にメリハリがつきます。また、勉強でなくとも、美味しいものを食べるとかDVDを見るとか、楽しいことを学習のあとに設定しておく＜ご褒美＞型も有効で、一日一日が有意義に過ごせると思います。とにかく、語学の勉強に無駄はないので、いつか全部役に立つと信じて（笑）、進んでいきましょう。

最近、テレビで面白かったのが、一歳になる前の子供たちに物の形を認識させるという実験です。三角、四角、丸いものと 3 パターンでやりまして、何も教えてないグループ、ビデオを通してどれが○でどれが△か教えたグループ、3つ目は直に教えたというグループに分けて実験していました。面白いというか、不思議というか、何も教えていないグループとビデオで教えたグループとでは、結果に差がないんですね。全く変わらない。そして実際に手にとって教えたグループだけが、成績が上だったという結果です。そんな訳で、今たくさん情報がありますし、ロシアに行かなくてもロシア語の勉強は出来るのですが、やっぱり実際ロシアに行って、五感をロシアにさらけ出して、そして学ぶというのが一番吸収しやすいのではないかと思います。

＜完＞

ロシア情報センター　連続講座
阿部昇吉先生の〈ロシア文学カフェ〉のご案内

2006 年 11 月、JIC ロシア講演会「ロシア文学に魅せられて　～私のロシア語学習遍歴～」の講師として、興味深く楽しいお話をしていただいた創価大学の阿部昇吉先生を再び講師としてお迎えし、連続講座〈ロシア文学カフェ〉を開催することになりました。

この講座はただ講義を聴くだけでなく、映像や音楽も利用し、目・耳をフルに使って楽しんでいただけるよう企画しています。19世紀のロシア文学の魅力を、存分に堪能しましょう。

そして〈ロシア文学カフェ〉ですから、ロシアンティーも忘れてはいけません。味覚を通じてロシアを感じながら、阿部先生のロシア文学についてのお話を聴き、ロシアの世界に浸たる週末はいかがでしょうか？

◆スケジュール◆

第1回　5月26日　「文学の誕生」　～プーシキン『駅長』『エフゲーニー・オネーギン』
第2回　6月9日　「狂気の彼方に」　～ゴーゴリ『鼻』『死せる魂』
第3回　6月23日　「ロシアの民衆」　～ツルゲーネフ『歌うたい』『すずめ』
第4回　7月14日　「叛逆のセレモニー」　～ドストエフスキー『罪と罰』『カラマーゾフの兄弟』
第5回　7月28日　「鉄人よ、いずこへ」　～トルストイ『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』
第6回　8月11日　「恋と愛のはざ間で」　～チェーホフ『別荘』『大学生』『恋について』

ロシアの世界に
どっぷり浸かろう！
ぜひお越しください。

◆講　師◆　阿部昇吉先生
◆会　場◆　東京・新宿区四谷　ロシア情報センター
◆時　間◆　各回とも15：00～
◆参加費◆　1回あたり：　一般2000円　JIC ロシア語講座受講生1500円
（全6回受講の方には割引があります。詳細は JIC のホームページでご確認下さい。）
◆主　催◆　国際親善交流センター
◆お問い合わせ◆　国際親善交流センター(東京)　TEL：03－3355－7294　FAX：03－3355－7290
E-mail：jictokyo@jic-web.co.jp　URL：http://www.jic-web.co.jp

キルギスってどんな国？

キルギス国立大学日本語教師（青年海外協力隊）
渡辺　良康

キルギス共和国。普通の日本人はどこにあるのかさえ知らない人が多いのではないだろうか。キルギスタンと言ったら、「～スタン」のつく国が集まっているのはだいたいあのあたりかな、と中央アジアをイメージできるかもしれない。

私は去年(2006 年)の 3 月に JICA(国際協力機構)の青年海外協力隊員として、ここキルギスへやって来た。職種は日本語教師。学生に日本語を教えるだけではなく、キルギス人教師のレベルアップを図るのが、私がしなければならない仕事である。

＜4 年生の学生たち　みんな顔は日本人にそっくり＞

ここに住んで一年になるが、キルギスという国はいろいろな魅力に富んだところである。

まず、キルギスはアジアである。キルギス人の顔は日本人と非常によく似ている。この目で確認したわけではないが、子供のお尻にはしっかりと蒙古斑があるそうだ。町を歩いていると、親戚のおじさんや同級生によく似た顔を見かけたりする。年上を敬うのもアジア的だ。

第二に、キルギスは旧ソ連の国である。1991 年に独立した。首都ビシュケクは社会主義共和国の首都だったことを感じさせる、計画的に建設された都市である。ソ連崩壊後もレーニン像が元気に立っているところに、キルギス人のおおらかさがうかがわれる。ソビエト連邦を構成する共和国の一部だったわけで、今も人口の 10%はロシア人だ。ビシュケクの人は、キルギス人もロシア語ができる。中にはロシア語はできるがキルギス語はちょっと苦手、というキルギス人もいる。ではキルギス語は弱い立場なのかというとそうではない。しっかり生きている。キルギス語のテレビ放送も新聞もある。キルギス語の語順は日本語と同じで、キルギス人にとって日本語は学びやすい言葉なのだそうだ。

第三に、キルギスはイスラム教の国である。日本の仏教にたとえるのが妥当かどうかわからないが、それと同じようにかなりゆるやかな信仰だ。豚肉も食べれば、飲酒もするという人もいるので我々が持っているイスラム教の厳格なイメージからは程遠い感じだ。もっとも断食月にきちんと断食をする学生もいる。また、学生に作文を書かせると、「イスラムの教えによれば」とか「コーランには…と書かれている」という文がよく見られる。生活の中にイスラム教は確かに息づいているのだろう。

＜ビシュケク南側のアラトー山脈＞

第四に、キルギスは遊牧民の国である。この地域に定住を始めたのは 15 世紀のことだという。キルギス人と馬とは切っても切れない関係にある。地方に旅行に行くと、はなたれ坊主が華麗に馬かロバを乗りまわしている姿を見ることができる。人馬一体となったスポーツも多い。遊牧民の移動式住居といえばモンゴルのゲルが有名だが、キルギスのボズィもキルギス人の誇りである。キルギスの国旗はこのボズィの天窓を図案化したものだ。

さらに、シルクロードとしてのキルギス、多民族国家としてのキルギス、日本にいいイメージを持ってくれている現代のキルギス、などなど、多様な顔をこの国は持っている。

ソ連時代は日本語を勉強している人はほとんどいなかったそうだが、独立後、貧しいキルギスの経済発展のモデルとしたかったからなのかよくわからないが、前アカーエフ大統領の時には「日本信奉」と言えるほどの好イメージを日本に持ったということだ。

日本にとっては市場価値もない小さい国だからか、日本企業の進出もない現在、以前ほど日本に対して大きな期待をしてはいないようだが、依然として日本に対するイメージは良い。「中国人は嫌いだけど日本人は好き」「日本語を勉強しているのは日本人がみんな親切でいい人だから」などという話を聞くと、「もうすこし客観的に物事を見なさい」とお説教の一つもしてやりたくなるが、もちろん気分が悪いはずはない。せっかく持っている日本と日本人に対するいい感情をこわさないように言動には気をつけている。

が、時には失言をすることもある。外国からの経済援助がなければやっていけないのがこの国の現状である。援助慣れしているように見えることもある。ある日、同僚の先生に「いつまでも『くださいください』と言っていてはだめでしょう」と言ってしまい、機嫌を損なってしまったことがある。

日本人と同じような顔をしていても、そこは異文化。生活習慣もコミュニケーションスタイルも違う外国なのだ。日本語を教えに来た身ではあるが、キルギスの文化・習慣を謙虚に学ぶ姿勢を忘れないでいようと思う。

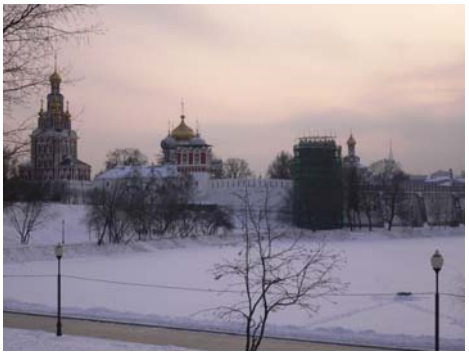
ロシアで出会った真っ黒な冬

南ロシア・クラスノダール旅行記　＜前編＞

～青木　緑～

私の胸に強烈な印象を残し、夢のように去っていったロシア旅行からはや二週間。時差ボケもすっかり治り、寝起きにテレビを見て「ここはロシアなのにどうして日本語のニュースが放送されているの・・・？」と、自分のいる場所を錯覚するようなこともなくなった。ここは東京だ。私はもう、夢から現実に戻ってきた。・・・・・・それでもそれでも、あれは、夢ではなかった。証拠に、まだ洗っていない、泥まみれのジーンズがここにある。ロシアの匂いの残る、思い出のジーンズ。このジーンズで歩いてきた真っ黒な大地ロシアの魅力を、そっとここに書き記しておきたいと思う。夢の余韻がまだ残っているうちに。

昨年の夏以来、二度目のロシアに降り立ったのは真冬の二月の夜のこと。空港を出ると、真っ黒い闇に、幻想的に浮かぶ真っ白い私の息。見とれていると、ふと息苦しくなった。「そうか、ここまで寒いと、空気も凍って息ができなくなるんだな。」と、寝ぼけた頭で考える。昨年私は、初めてのロシア旅行の感想を綴り、このインフォメーション紙上で発表させていただいた。ロシアの人々のあたたかさに感激し、「ロシアは熱かった！」と、冒頭から堂々と述べた私。それでもいざ冬のモスクワを訪れてみると、やはりロシアは寒かった。靴の中に忍ばせたホッカイロも、凍りついた地面に触れたとたん、すっかり冷たくなってしまった。あぁ、やはり、聞いていたとおりだ。ロシアは寒い。そして白い。どこまでも続く白銀の世界。夏に見たモスクワ川の濃紺の流れは、真っ白な氷と化しており、真っ青だったモスクワの空は、どんよりとした曇り空に変わっていた。寒い。そして白い。雪国長野生まれの私でも、スキー場以外でこれほど寒い思いをするのはモスクワが初めてだった。そして異国の地で雪を見るのもモスクワが初めてだった。夏のモスクワは、空の青と木々の緑に彩られていたが、雪景色のモスクワは夏とは別世界で、これまたいい。白い大地に教会の色とりどりの屋根がよく映える。雪の日の長野の善光寺とはわけが違う。私にとって生まれたときから馴染みのある長野の雪と同じ白い雪が、ここでは全く別の魅力を持ち、モスクワの街並みに、教会に、人々の生活に馴染んでいる。いい。すごくいい。白いモスクワ。思い描いていたとおりのロシアの冬だ。



＜モスクワの冬景色＞

でも実は、真っ白なモスクワは今回の旅の終着点ではなかった。今回私が向かったのはクラスノダールという都市。私とロシアを出会わせてくれた運命のロシア人ジェーニャが、故郷の地に私を招待してくれたのだった。黒海の北東に位置するこの都市は、世界地図を広げて見てみると、広大なロシアの南端にあたり、周囲にはチェチェン、グルジアなど名前を聞くだけで治安の悪いイメージが頭に浮かぶような地名が並ぶ。この遠く離れた未知の場所に、友人一人を頼って行くことに関し、家族には本当に心配をかけてしまった。それでも私が、家から一歩出ただけで喋らなくなるほどの小心者だったというのはもう十年以上も前の話。成長した自分の力を試してみようじゃないか、と決心し、一人で日本を発ったのだった。

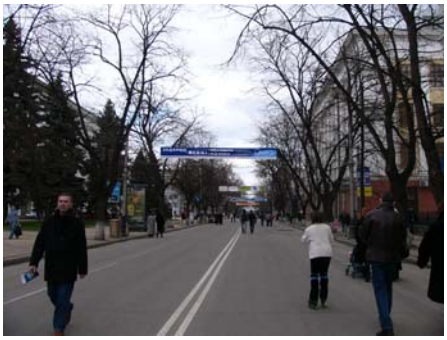
モスクワに到着して数日後の早朝、私は重いスーツケースを引きずりながら、地下鉄の駅に向かって雪道を必死に歩いていた。数歩歩くだけで、スーツケースの車輪はすぐに真っ白な雪が詰まって動かなくなってしまう。手袋やコートの表面では、今までの人生で一度も見たことのないような美しい雪の結晶の数々が私の目を楽しませてくれていた。真っ白な花は私のもとに舞い降りては消え、私はこの姿をもっとずっと見ていたいと、モスクワとの別れを惜しんだ。飛行機の出発時刻が近付いていた。いよいよ私は旅の終着点に向けて出発した。

＜ようこそクラスノダールへ＞

モスクワから南へ飛行機で2時間。アエロフロートの小さな飛行機の窓をおおう霜の隙間から見下ろすと、そこには黒い黒い、広大な大地

が延々と広がっていた。真っ白なモスクワから飛び立った私たちの飛行機が到着したその地は、なんと、真っ黒なロシアだった。クラスノダールでの忘れられない二週間が幕を開けた。

同じ飛行機に有名な歌手が乗っていたらしく、私がクラスノダールに来たことよりもそのことに興奮しているジェーニャを尻目に、私はスーツケースを受け取ると空港から一歩外に出た。ついにクラスノダールの土を踏んだ。ブーツが乾いた音を立てる。そこに広がっていたのは白銀の世界ではなかった。モスクワで見た真っ白な雪などどこにもない。少しだけ積もっていた雪は融け出していて、泥となりあちこちにぬかるみをつくっていた。モスクワでたくさん見た、「ロシア」と聞いたらすぐに思い浮かべるようなあの毛皮の帽子を被っている人もどこにもいない。マイナス10度の世界から、一気にプラス10度の世界に舞い降りた。飛行機なんかではなく、タイムマシーンにでも乗って異世界に飛んできたような気分だった。同じ国のなかでも、これほど異なる「冬」があるとは。もちろん、日本でも冬の北海道と沖縄は全くの別世界だが、それでも、ロシアの冬はどこも真っ白だと、私は勝手に信じ込んでいた。旅行ガイドブックには、冬のロシア旅行の服装として、厚いコートと帽子・手袋は必須だと書かれていた。しかし私は、ここクラスノダールで毛糸の帽子を脱ぎ、分厚いダウンコートは春用の薄いコートに着替えた。ブーツを脱ぎ捨て、おしゃれなハイヒールを買った。手袋は、なんとまぁ、放っておいたら無くしてしまったほど。一応言っておくが、ここは、まだ三月に入ったばかりのロシアである。時折吹きつける冷たい風も、凍りついた風が顔を刺すように吹きつけていたモスクワのことを考えると、すがすがしく感じられるほどだった。


＜クラスノダールの目抜き通り》

＜のどかなクラスノダールの公園＞

帰国し、東京の生活のリズムもやっと整ったなか、最近クラスノダールの夢を見た。私はどうしてもまたクラスノダールに行きたいという強い欲望を抑えきれず、なんとビザ無しで渡航してしまったという夢だった。無事にクラスノダールには辿り着いたものの、いつ警官にパスポートをチェックされてビザの無いことがばれるかとヒヤヒヤし、警官が近くを通ると、怪しまれぬよう冷静な表情を保とうと必死になっている。なぜ私はこんな夢まで見てしまうほど、またあのクラスノダールに戻りたいのか。クラスノダールでは、モスクワのように美しい雪の結晶が舞い降りてくることはなかった。かわりに、一歩歩くごとに、ぬかるみから泥が跳ね返ってきた。それでも今は、このジーンズに付いた泥の跡が、雪の結晶のように愛おしく感じられてならない。かけがえのないクラスノダールの黒い土。かけがえのない私の思い出、私の宝物。クラスノダールで見つけたたくさんの魅力を、次回、じっくりとお伝えしたいと思う。

～次号へ続く～

～ロシア芸術を日本で楽しむ～

〈ロシア絵画の真髄〉

サンクトペテルブルグ　国立ロシア美術館展

開催場所：東京都美術館
開催期間：2007 年 4 月 28 日（土）～7 月 8 日（日）
開室時間：午前 9:00～午後 5:00
（入室は閉室の 30 分前まで）
休室日：毎週月曜日（ただし、4 月 30 日は開室）
入場料：一般 1,400 円　学生 1,200 円　高校生 650 円
高齢者（65 歳以上）700 円　中学生以下無料
お問合せ：産経新聞社事業局　03-3275-8904
www.rusmuseum.jp
アクセス：東京・上野公園内
JR［上野駅］公園口より徒歩 7 分
京成電鉄［上野駅］より徒歩 8 分
東京メトロ銀座線・日比谷線［上野駅］より徒歩 10 分

大エルミタージュ美術館展

いま甦る巨匠たち400年の記憶

開催場所：京都市美術館
開催期間：2007 年 3 月 14 日（水）～5 月 13 日（日）
開館時間：午前 9 時～午後 5 時
（入場は閉館の 30 分前まで）
休館日：月曜日（ただし、4 月 30 日は開館）
入場料：一般 1,300 円　高大生 900 円　小中生 500 円
お問合せ：　電話　075-771-4107
http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/
アクセス：京都市左京区岡崎円勝寺町岡崎公園内
市バス「京都会館美術館前」下車すぐ

ロシアに友達をつくろう！

ロシアや旧ソ連からペンパル募集

①Name ②Sex ③Born ④Address ⑤E-mail ⑥Hobby ⑦Languages

① **Khlopenko Natalya** ② Female ③ 1987 ④ Russia, Moscow ⑤hlona@mail.ru ⑥ Reading, chatting, cinema ⑦ Russian, English

①**Butsukina Katya** ②Female ③Age: 23 years old ④ Russia, Moscow ⑤ koshka2201@mail.ru ⑥ Art, photo, traveling, anime, samurai, kendo ⑦Russian, English

① **Kurnosova Aleksandra** ② Female ③ 05/07/1986 ④ Russia, Moscow ⑤shurupushka@yahoo.com ⑥Student of the University of Foreign Languages, study German, English, Japanese. Hobby: Japanese culture, anime, knitting. ⑦Russian, English

① **Sokolovskaya Nina** ② Female ③ 1956 ④ Russia, Primorskij Kraj, Nakhodka ⑤nihonya@yandex.ru ⑥Drawing, photo, yoga, travels ⑦Russian, English

①**Bychikhin Dmitry** ②Male ③1983 ④Russia, Tyumen city ⑤ 9561215@mail.ru ⑥ Psychology, photography, Japan(culture,language) ⑦English, Russian, Japanese

①**Danilov Igor** ②Male ③1982 ④Ukraine, Dnepropetrovsk city ⑤skive@ua.fm ⑥Anime, J-music, Japanese language, Japan in general ⑦Russian, English

①**Zagrebel'znyj Pavel** ②Male ③1987 ④Russia, St.Petersburg ⑤ greygaru@mail.ru ⑥ A lot of: Music, Cinema, Literature(SF in particular), computer games, anime, Japan in general ⑦Russian, English

①**Belov Vladimir** ②Male ③1957 ④Russia, Angarsk town ⑤wo57wa62@bk.ru ⑥A lot of hobbies ⑦Russian

① **Reshetnikova Anna** ② Female ③ Age:27 ④ Moscow, Russia ⑤ anna.reshetnikova@standardbank.com ⑥ Profession: Trader, Finance. Hobby: Literature, art, classic and folk music, cinema, history, sports(mountain and cross-country skiing, swimming), travel ⑦English, Russian

① **Shpakovskii Aleksei** ② Male ③ 1991 ④ Russia, St. Petersburg ⑤ grandline06@mail.ru ⑥ Japanese culture, anime ⑦English, Russian

① **Sorokina Irina** ② Female ③ 1983 ④ Russia, Nishnij Novgorod city ⑤ishkus@mail.ru ⑥sports, paintings, photo, foreign languages ⑦English, Russian

①**Chernyshova Dina** ②Female ③1981 ④Russia, Moscow ⑤ dicher2000@mail.ru ⑥ Music(j-pop), books, travels, dramas ⑦English, Russian

①**Pichkov Sergei** ②Male ③1987 ④Russia, Tambov town ⑤neo_teror@mail.ru ⑥Guitar, J-rock, art, Japan in general ⑦English, Russian

①**Zaharova Valeriya** ②Female ③1990 ④Moscow, Russia ⑤asakurayoh@inbox.ru ⑥manga drawing, karaoke, cosplay ⑦English

①**Vasyutina Elena** ②Female ③1987 ④Russia, Izhevsk city ⑤ SunLLIine@yandex.ru ⑥ Literature ⑦ English, Russian

① **Rubtsova Evgeniya** ② Female ③ 19 years ④ Russia, Saratov city ⑤acidum_nitricum@yahoo.com ⑥Profession: Student Hobby: modern Japanese streetfashion, subcultures, music(j-rock, j-pop), Traditional culture, history, anime, manga ⑦English, Russian

①**Karev Pavel** ②Male ③Age:18years old ④Russia, Penz ⑤freeman2015@yandex.ru paberunomeiru@hotmail.com ⑥ Hobbies: modern Japanese culture and language, studying foreign languages, reading and much more ⑦ English, Russian, a little Japanese

① **Kavalenkova Anya** ② Female ③ 1991 ④ Russia, St.Petersburg ⑤ vashe.velichestvo@gmail.com ⑥ dogs, drawing, dances, roller skating ⑦English, Russian, a little Japanese

① **Dyakonov Andriyan** ② Male ③ 1963 ④ Russia, Kamchatka ⑤ hom63@mail.ru ⑥ Work: engineer. Hobby: tourism, hunting ⑦Russian

①**Novova Olga** ②Female ③Age:21 years old ④Russia ⑤ liia-lin@mail.ru ⑥ Profession: student of university, studying economy. Hobby: seeing cinema and anime, listening music, reading literature ⑦ Russian, English, German, a little Japanese

①**Sulejmanov Marat** ②Male ③1971 ④Russia, Republic Bashkortostan, Salavat ⑤ summ_ny@yahoo.com ⑥ Occupation: Fireman. Hobby: music, cinema, books, gardening, photo, active tourism, judo, Japanese culture ⑦ English, Russian

①**Kozlov Pavel** ②Male ③1988 ④Russia, Ivanovo town ⑤nemes1s_88@mail.ru ⑥History, J-anime, E-music etc. ⑦English, Russian

①**Tatlybaeva Elia** ②Female ③Age: 23 years old ④USA, Los Angeles ⑤elvira.tatlybaeva@gmail.com ⑥Profession:

Architect. Hobby: reading books, movie, music ⑦English, Russian, Tatar

① **Kozlova Nastya** ② Female ③ Age: 13 ④ Latvia, Ventspils town ⑤cornelia13@inbox.lv, mystery13@inbox.lv ⑥Profession: A student at school. Hobby: Drawing (anime stile), Writing novels or detective stories, learning different languages(English, French, in future-Japanese) ⑦English, Russian, a little French

①**Sasha** ②Male ③Age:20 ④Russia ⑤Natsu666@mail.ru ⑥Occupation: Programmer ⑦English, Russian

①**Baranova Alla** ②Female ③1981 ④Ukraine, Sumy town ⑤alla_baranova@ukr.net ⑥Occupation: researcher (law) Hobby: reading, Japanese culture and language ⑦English, Russian

①**Grzhivach Ivan** ②Male ③1987 ④Russia, Vladikavkaz town ⑤user64bit@ya.ru ⑥Occupation: military servive. Hobby: new technologies, travels, yachting ⑦English, Russian

① **Maria** ② Female ③ Age: 30 ④ Russia ⑤ zhuchina@yandex.ru ⑥Profession: engineer-programmer. Hobby: teaching, reading, a little painting and Chinese calligraphy, going in for sports, swimming, riding a bike, R&B and hip-hop dancing, movies, music ⑦English, Russian

①**Yurova Irina** ②Female ③1978 ④Russia, St.Petersburg ⑤PetraByurger@rambler.ru ⑥Occupation: publishing redactor. Study religious traditions. Hobby: modern Japanese culture, cinema, music, literature. ⑦English, Russian

① **Puchka Ik'ya** ② Male ③ 1978 ④ Russia, Reutov, Moscow region ⑤ kukarachasan@mail.ru ⑥ Russian rock-music, guitar, Japan, programming… ⑦ English, Russian

① **Karmazina Natasha** ② Famale ③ 30years ④ Russia, Saratov town ⑤volga_1982@saratov.ru ⑥Japan, aikido ⑦ Russian, German

①**Likhomanov Igor** ②Male ③1986 ④Russia, Moscow ⑤ igorelf2@mail.ru ⑥J-pop, J-movie, art, programming(my work) etc. ⑦English

① **Kurnosov Aleksandra** ② Female ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ shurupushka@yahoo.com ⑥ Student of the University of foreign languages, study English, German and Japanese. I am fond of Japanese culture, anime. My hobby is knitting ⑦Russian, English

①**Kovalev Slava** ②Male ③1991 ④Russia, Kemerovo city ⑤ suzuki_daos@mail.ru ⑥ My hobbies: learning foreign languages (Japanese, German, Chinese and so on), listening to rock music (I like "Rammstein","Lacrimosa"), philosophy (especially Chinese) and science fiction. I'd like to practice in different languages and I would be glad to help Japanese friends with studying of Russian. I hope you to tell me something about life in Japan and help me to study Japanese. ⑦Japanese, Russian, English, German

①**Krovyakov Vadim** ②Male ③1985 ④Kazakhstan, Almaty ⑤Almatbi@gmail.ru ⑥Japanese language, culture to Japan, penpals, Anime, J-pop,J-rock ⑦Russian, English

第6回札幌大学ロシア語弁論コンクール

日　　時:2007 年 6 月 30 日(土)13:00～
場　　所:札幌大学キャンパス内
応募締切:2007 年 6 月 14 日(木)必着
参 加 料:無料

学校や大学でロシア語を学ぶ人をはじめ、生涯学習としてロシア語を学んでいる社会人など、ロシア語能力の向上を目指す方々を学内外から広く参加者を募集する全国規模のロシア語弁論コンクールです。

ロシア政府認定　ロシア語検定試験

試験日:2007 年 11 月 10 日(土)～11 日(日)
場　　所:札幌大学キャンパス内
願書受付期間:2007 年 9 月 1 日(土)～
10 月 19 日(金)必着
受験料:10,000 円

「ロシア語検定試験(ＴＰＫＩ)」はロシア政府公認、全世界で行われている検定試験です。受験者はキャンパス内のセミナーハウスに宿泊できます(1 泊 1,000 円)。

お申込み・お問合せ

〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3 番 1 号
札幌大学学生支援オフィス外国語学部 TEL: 011-852-1181 (担当:丹野、安田)
E-mail: tanno-s@ofc.sapporo-u.ac.jp　yasuda-s@ofc.sapporo-u.ac.jp
弁論コンクール担当教員: 高橋 健一郎 (E-mail: takaken@sapporo-u.ac.jp)
ロシア語検定試験担当教員: 鈴木 淳一 (E-mail: j-suzuki@sapporo-u.ac.jp)

Чайка チャイカ

チャイカ　第一回公演「かもめ」

原作　アントン・チェーホフ

脚本・演出　外輪能隆[エレベーター企画]

かもめのように湖が好きで
かもめのように幸福で自由だった

公演にあたって

近頃の報道から、いじめなどで自殺を考える若者に思いを向ける。その強すぎるほどの想いは、絶望によるものなのか、それとも何かを残すためなのか・・・

チェーホフは没後 100 年を迎えたが、この作品の登場人物たちは、現代の私たちの悩みと何ら変わらないものを抱えて生きている。夢みる気持ちと現実の生活とのギャップ。愛しているのに素直になれないもどかしさ。ひたすら懸命だったり、ほんとうはギリギリだったり。

けれど、そんな生きざまに触れることで、明日からの生活に繋がるものがきっとあるのではないかと思う。

チャイカ　プロデューサー　辻野　加奈恵

ストーリー

美しい湖のほとりに住む若い恋人、女優にあこがれる田舎の娘ニーナと、有名な女優の子であり芸術に革新をもたらす作家をめざす青年コースチャ。二人はともに成功を夢みて淡い日々を過ごしていたが、ある時ニーナは人気作家トリゴーリンに想いを寄せ街へと飛び出して行くことになる。

二年後、作家となったコースチャの前に、多くの挫折を味わったニーナが現れる。惨めな浮き草のような女優生活に耐えるその姿を、彼は目の当たりにする・・・

◆公演日時◆

2007 年 4 月 21 日（土）　16:00　19:30

4 月 22 日（日）　14:00　17:30

（開演の 40 分前より受付開始・開場いたします）

◆料金◆

前売 2,500 円　　当日 3,000 円

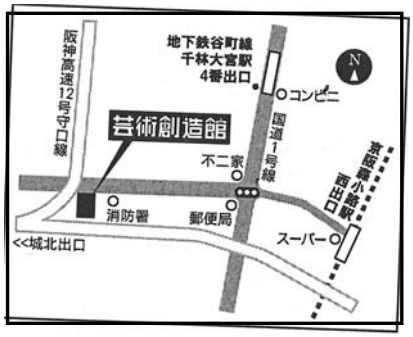
◆チケット取り扱い◆

メール予約：chaika2007@yahoo.co.jp

(ご希望日時・枚数・お名前・お電話番号をご記入下さい)

電話予約：芸術創造館　06-6955-1066

(受付時間 10:00～22:30)



◆会場◆

芸術創造館

Address：〒535-0003

大阪市旭区中宮 1-11-14

Tel：06-6955-1066

Fax：06-6955-7901

http://www.artcomplex.net/art-space

◆アクセス◆

地下鉄谷町線「千林大宮」駅 4 番出口より南西へ徒歩 10 分

京阪「森小路」駅西出口より西へ徒歩 10 分　　ほか

◆お問い合わせ◆

Office チャイカ

〒522-0007　大阪市港区弁天 4-11-20-604

Tel：06-6576-8578　Mail:chaika2007@yahoo.co.jp

チャイカ公式 HP：http://www.evkk.net/chaika/

Краткосрочный курс Японского Языка　ロシア語で教える日本語講座

Первый Семестр 2007-го года

◆Занятия с 10.04,всего 36 уроков.

◆Длительность урока – 90мин.

◆Место проведения :JIC Российский информационный центр
(5мин.от станции YOTSUYA SAN CHO-ME,MARUNOUCHI LINE)

◆81,000 йен за полный курс (2,250йен за один урок)

途中参加可能！
無料体験あり！

Расписание

●Элементарный курс(入門クラス)●

16:00-17:30

●Базовый курс(初級クラス)●

13:30-15:00

(По вторникам и по пятницам)

教室：　東京・新宿区四谷 3 丁目（JIC ロシア情報センター）

期間：　4 月 10 日（火）～9 月末　全 36 回（火・木の週 2 回）

受講料：81,000 円（別途教材費が必要になる場合があります）

◆お問い合わせ◆　JIC 東京

Tel：03-3355-7287　Fax：03-3355-7285

お問い合わせはお気軽にどうぞ！

“Smile for All in the World”あなたのやさしさを世界へ
国際協力機構（JICA）の

「世界の笑顔のために」プログラム

～日本の映像資料をキルギスへ送りましょう～

キルギスの大学で日本語を学ぶ学生のために「日本の映画、ドラマ、ドキュメンタリーのビデオ」を必要としています。キルギスの学生達は日本語を熱心に学んでいますが、日本についてはあまり知りません。日本語のみならず、日本を知ることが出できる映像資料を求めています。

2007 年 4 月 9 日～6 月 29 日まで、JICA によって「世界の笑顔のために」プログラムが企画されました。この機会に日本の映画やドキュメンタリーのビデオを提供していただきますようお願いいたします。JICA が指定する倉庫（東京都内）までは物品を提供していただく方に送料を負担していただきますが、東京から海外までの送料は JICA が負担します。

DVD を購入された際に不必要になったビデオなどございましたらぜひお送り下さい。ご協力に感謝いたします。

まず、JICA のホームページから「提供物品リスト」をダウンロードしていただき、ご記入の上、電子メール電子メールまたは FAX で物品を提供してくださる旨、下記までご連絡下さい。

独立行政法人　国際協力機構　青年海外協力隊事務局
「世界の笑顔のために」プログラム係
電話：03-5352-5550（受付時間　AM10:00-PM5:00）
FAX：03-5352-5586　E-mail：jicajv-egao@jica.go.jp
HP：http://www.jica.go.jp/partner/smile/index.html

狂言公演 in Russia!

3 月にモスクワとサンクトペテルブルグで日本の伝統芸能・狂言の公演が行われました。JIC もこの狂言公演に協力し、ワークショップへも参加しました。

次号（6 月 10 日号）にて詳細な報告を掲載する予定です。乞うご期待！！

狂言公演のパンフレット

JICモスクワ通信 vol.5

日ロ間旅行の活性化へ

いよいよロシアにも、日本にも春がきました。「インツアーマーケット」という旅行業見本市にいらした日本のさまざまな会社の方に、「モスクワは例年になく暖かいですが、日本は今何度ぐらいですか」と聞くと、「あ、同じぐらいだよ！」という答えばかり。

インツアーマーケットは、3 月 18 日から 21 日まで行われました。モスクワ市とモスクワ州の境である大環状線のそば、将来モスクワ州役所の新しい高層ビルができる辺りに位置する、「クロクス・エキスポ」という博覧会場にて、世界の国々への旅行を広告する会社が、ロシアからの観光客を集めました。「日本の日」と名づけられた 18 日には、国土交通省の代表団とロシア旅行省の代表団との樽酒の鏡割りの後、振るまい酒があり、モスクワ音楽院付属「和音」という邦楽団が尺八、琴などを演奏して、その後も茶道の説明などがありました。

JIC 旅行センターも他の日本の会社と一緒に日本ブースでプレートをかかげ、日本旅行プログラムを提案し、ロシア旅行代理店と名刺交換などを行いました。また 18 日には「日露観光交流促進協議会」が主催され、JIC の社長伏田が日露観光交流の拡大に向けた課題、たとえば、モスクワおよびペテルブルグでのホテル不足とホテル価格の高騰の問題、空港－市内の交通インフラの整備を促進の必要性、鉄道の主要ターミナル駅と地下鉄の各駅への英語の案内表記設置の必要性などについて述べました。

この「インツアーマーケット」とは、現在、より大きな国際旅行業見本市として成長しつつあります。より深くお互いの国のこと、問題解決の意見交換を行う事も出来る場になり、その結果として、両国間の観光客が増加できたら嬉しいことですね。

トカチェンコ・ドミトリー
（JIC モスクワ）

ロシア大使館でのJIC交流イベント

ロシアンフェスタ TOKYO

ロシア連邦外務省付属ロシア国際文化科学協力センターとの共催で行っている、このロシアンフェスタ。大使館付属学校の児童・生徒、および日本の日露友好団体の皆さんのステージを楽しんだり、ロシアや旧ソ連圏の人々との交流をはかったり。楽しみ方はいろいろです。この機会にロシア仲間を見つけませんか？ロシア語を勉強している人なら、ぜひこの機会に会話のお試しを。JIC スタッフによるロシア旅行・留学相談もあります。この夏はロシアに行こう！

日　時：5 月 12 日(土) 13:30～
会　場：在日ロシア大使館付属学校(東京　港区麻布台)
参加費：一般 1,000 円　J クラブ会員 800 円
お申込：電話・ファックスなどで、お名前・ご住所・お電話番号を 5 月 7 日(月)18:00 までに JIC 東京までお知らせ下さい。(定員になり次第締め切ります。)
詳細は JIC 東京オフィスまでお問合せ下さい。
最新の情報は JIC の HP でもご案内いたします。

ロシア仲間をつくろう！

JICフェアー OSAKA

在阪のロシア・旧ソ連地域出身の方々、ロシアファンの日本人、子供も学生も年配の方々も集まる、お待ちかねの JIC フェアーを今年も行います。ロシアに関する情報収集の場として、お友達作りのきっかけとして、ロシア語を試してみる機会として、ぜひご利用下さい。持ち寄り式のフリートーキングパーティーですので、お一人 1 品(食べ物・飲み物など)をお持ち下さい。会場には調理室もございますので、温めたり盛り付けたりできます。例年同様、ロシア旅行・留学の相談コーナーもございますので、お気軽にご参加下さい！

日　時:6 月 3 日(日)13:00～17:00
会　場:ドーンセンター4F(大阪・天満橋)
参加費:1,000 円(当日受付にてお支払い下さい)
お申込:電話・ファックス・メール・郵送なんでも OK です。6 月 2 日(土)までに JIC 大阪オフィスへお申込下さい。
詳細は JIC 大阪オフィスまでお問合せ下さい。
最新情報は JIC の HP をご覧下さい。

JIC東京 ロシア語講座 4月2日(月)より順次開講！

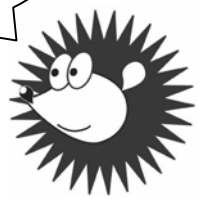
教　　室:東京・新宿区四谷3丁目(JIC ロシア情報センター)
ク ラ ス:入門Ⅰ(火)、入門Ⅱ(月)、初級(月)、中級(水)、上級講読(木)、上級会話(金)、土曜講座①・土曜講座②(土)
時　　間:平日19:00-20:30　土曜①10:15-11:45　土曜②12:00-13:30
受 講 料:前期(全18回)54，000円　(学生割引、2講座同時受講割引あり)
定　　員:1クラス4～8名程度
お問合せ:JIC 東京　TEL:03-3355-7287　FAX:03-3355-7285

レベルのご相談はお気軽に！
詳細は資料をご請求下さい。

JIC大阪 ロシア語講座 4月17日(月)より順次開講！

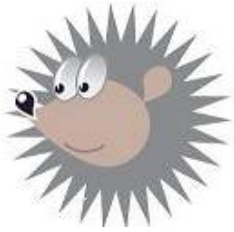
東京・大阪とも、無料体験レッスン(一回)が可能です。大阪の講師は全員ネイティブですよ。

教　　室：大阪・天満橋(JIC 大阪オフィス内)
ク ラ ス：入門(火)、初級(木)、中級(金)、上級(月)
時　　間：19:00-20:30
受 講 料：前期(全15回)35，000円　(学生割引、2講座同時受講割引あり)
定　　員：1クラス5～10名程度
お問合せ：JIC 大阪　TEL:06-6944-2315　FAX:06-6944-2318



4~6月の予定

4月　2日（月）JIC 東京ロシア語講座　前期スタート
4月10日（火）JIC 東京日本語講座　前期スタート
4月17日（月）JIC 大阪ロシア語講座　前期スタート
5月12日（土）JIC ロシアンフェスタ in 大使館
6月　9日（土）留学相談会（東京）
6月　3日（日）JIC フェアー（大阪）
6月30日（土）留学相談会（大阪）



最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。ご確認下さい！

JICからのお知らせ

◆営業時間変更のお知らせ◆

国際親善交流センター（JIC）および JIC 旅行センターの平日の営業時間が 2007 年 4 月から変更になっています。

2007 年 3 月まで 10：00-19：00

2007 年 4 月～　10：00-18：00

よろしくお願いいたします。

◆ロシア留学旅行相談（東京･大阪各ｵﾌｨｽ）◆

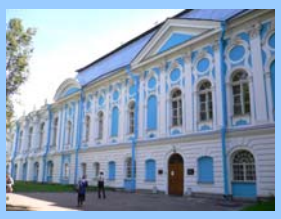
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所　平日 10-18時　土曜 10-16 時
大阪事務所　平日 10-18時　土曜（6-9 月のみ）10-16 時

ロシア長期留学９月生（第33期生）

2007年6月15日締切!!

＊期間＊ 2007年9月より10ヶ月



ロシア語個人研修（随時募集）

ロシア語グループ＆個人研修（随時募集）

JIC夏の短期ロシア語研修旅行

サンクトペテルブルグ大学ロシア語研修
＆モスクワ旅行

＊期間＊ 2007年9月4日(火)～22日(土) 全19日間

＊料金＊ 成田・関空発 ¥335,000－

＊締切＊ 2007年7月2日(月)

勉強も観光もしっかり！

長期留学の下見にも、１ 人での留学が不安な方にもおススメです！

ロシア留学相談会のお知らせ

ロシア語研修を考えていらっしゃる皆さん！留学相談会を東京・大阪にて開催いたします。留学についての不安や疑問を相談してみよう！ご希望の方は、各オフィスまでご予約ください。この期日以外にも留学相談は受け付けています。事前ご相談下さい。

６月　９日(土)　JIC 東京　13：00－16：00
６月３０日(土)　JIC 大阪　13：00－16：00

≪会場≫　東京：四谷　　ロシア情報センター
　　大阪：天満橋　JIC 大阪オフィス

≪お問合せ・予約先≫
東京：TEL03－3355－7287　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪：TEL06－6944－2315　jicosaka@jic-web.co.jp

お気軽にパンフレットをご請求下さい！

留学・研修各種パンフレットは JIC へご請求ください。留学・旅行相談お気軽に！

～Jクラブ（JIC友の会）のご案内～

ＪＩＣインフォメーションを年６回、またＪＩＣのイベント案内をもれなくお届けします。
入会ご希望の方は、国際親善交流センター（東京・大阪）までご連絡下さい。